



## 全校のために自分ができること

校長 岡田 優子

伏見小学校には西側に大きなイチョウの木があります。今年は、例年より色づきが遅く、12月に入ってから色づき始めました。イチョウが黄金色に輝き、根元は黄色い絨毯となったころ、休み時間はいつもそのあたりに子どもたちが群がり、イチョウと戯れる姿が見られました。イチョウの葉を舞い上げたり、ふかふかのイチョウの絨毯に寝そべったり、イチョウの葉でブーケを作ったり…。思い思いに秋の遊びを楽しんでいました。



そんなイチョウが、徐々に散り始め、短い秋が終わりました。運動場には大量の落ち葉が…。これは大変だと思っていたら、美化委員会の子どもたちが、「落ち葉拾い」を企画してくれました。これは、毎年恒例の行事だそうですが、今年はより全校が楽しく取り組んでくれるよう、様々な工夫がみられました。落ち葉拾いは、美化委員会の呼びかけに賛同した、有志の子たちが昼休みに行ってくれました。3日間ほど行いましたが、とても多くの子たちが参加してくれ、あっという間にきれいになりました。今回の落ち葉拾いには秘策があり、参加してくれた子たちに、遊びチケットを渡すというものでした。だから、大盛況だったのです。また、拾ったイチョウの葉を使って「イチョウの葉くしきし大会」を企画してくれました。これは、制限時間に木の枝に何枚イチョウの葉をさすことができるかを競う企画です。木の枝は、美化委員会の子たちが拾ってきてくれました。落ちている木の枝や落ち葉で簡単にでき、1年生から6年生まで誰でもできる遊びを考案してくれた美化委員会の皆さんに拍手です。とはいえ、準備はたいへんだったことでしょう。休み時間のたびに、担当の先生と打ち合わせをしている姿がありました。しかし、その顔はやる気に満ちて、生き生きとしていました。きっと、全校のために役立っている喜びや達成感を感じたことでしょう。



人間が喜びを感じる時は、「美味しいものを食べているとき」「家族や愛する人と過ごしているとき」「自分の好きなことをしているとき」など、様々な場面がありますが、「人のために役にたてたとき」「自分の目標が達成できたとき」も喜びを感じると言われています。後者の二つをより多く経験することで、自己肯定感が生まれ、これからの人生を前向きに、そして自らきりひらいていく原動力となっていきます。学校では、授業だけでなく、運動会などの全

校行事、学年行事、委員会活動やクラスでの係活動等、様々な場面で、子どもたちのこうした経験を大切に、後押ししています。先日も、学校帰りに地域のゴミ拾いをしてきている子たちがいると、地域の方から連絡がありました。地域のために役に立とうとする素晴らしい姿を、早速、全校にも紹介しました。

美化委員会の取組は終わりましたが、その後も昼休みに自主的に落ち葉拾いをしてくれる子たちがいます。お楽しみがあるわけでもなく、チケットがもらえるわけでもありません。運動場がきれいになる達成感や全校のために役立つ喜びがそうさせているのでしょう。美化委員会の子たちの取組が、少しずつ全校に良い影響を与えてくれていることを嬉しくそして誇らしく思います。

### 保護者の皆様

先日は、学校評価アンケートにお答えいただき、ありがとうございました。集計結果・考察は、別紙にて公表させていただきますので、ご覧ください。

2学期も、本校の教育活動にご支援・ご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。これから冬休みに入りますが、子どもたちが年末年始、ご家族とのふれあいを深め、エネルギーをチャージして、また3学期元気に学校に登校してくださることを願っております。よいお年を。

